



Lend a Hand  
手を貸そう

国際ロータリー第2750地区多摩東グループ  
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

# Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-3-31 第646回例会 NO.14-35 2004-4-5 発行

◎司会 SAA委員会 小林 正

◎点鐘 会長 大松 誠二

◎ロータリーソング「四つのテスト」

ソングリーダー 吉沢 洋景

◎お客様紹介 会長 大松 誠二

- ・東京東江戸川RC 森本 弘 様
- ・岡山西南RC 椎原 裕二 様

◎会務報告 会長 大松 誠二

3月24日開催定例理事会報告

- ・クラブの正規のルールに基づいて承認された会員候補者の入会を妨害された問題について、継続して審議しました。ロータリアンとして絶対認められない、そして除名に値する行為であることを理事会として再確認しましたが、この事件を乗り越えて多くの会員を信頼し、これからは会員の心をつなげて、クラブの団結と会員増強のために、理事会は全力をあげて取り組みたいと思います。すべての会員の皆さんには、この方針にご理解とご協力を改めてお願いします。
- ・国際大会と親睦旅行について報告がありました。順調に準備が進められています。
- ・多摩市喫煙マナーアップキャンペーンの実施計画について審議しました。具体的な日程と協力依頼を、後日、社会奉仕委員会にお願いします。

特別事業「白楽荘訪問」の写真パネルを白楽荘及びびみゆき幼稚園に贈呈 (報告)



◎幹事報告 幹事 藤本 吉文

- ・4~5月例会その他行事予定(配布)について説明

◎次年度会務報告 次年度会長 菊池 敏

- ・4月7日午後1時45分より、事務局にて被選理事会を開催しますので、役員理事の皆さんは予定して置いて下さい。

## 【委員会報告】

◎出席報告 出席委員会 小林 正

- ・会員総数 43名
- ・出席義務者数 42名(出席免除者2名)
- ・出席者数 28名
- ・欠席者数 14名(事前MU3名)
- ・出席率 73.81%
- ・欠席者: 遠藤 二郎、藤原 正範、平野 行廣、伊藤 英也、北村 幸彦、小城 章員、正房 正孝、小田 泰機、関岡 俊二、菅井 信夫、杉野志保子、杉田 誠、高野 範城、津守 弘範
- ・補填MU: 澄川 昇 3/24 理事会  
伊藤 英也 3/24 理事会  
関岡 俊二 3/24 理事会  
杉田 誠 3/17 被選理事会

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会 萩生田政由

- 大松 誠二 桜が満開となりました。帰りは夜桜見物としちゃれましょう。
- 藤本 吉文 今日は桜満開の中で楽しいスクラッチ会でした。
- 足立潤三郎 本日スクラッチ会でワン、ツー、フィニッシュで優勝、準優勝しました。桜も満開で綺麗でしたよ。

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号  
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491  
E-mail tamagr@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階  
【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30  
【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文  
【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝  
【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

宮村 宏 教えているジュニアがテニスの東京ジュニア選手権でシングルス、ダブルスと優勝しました。

海野 榮一 楽しいお花見ゴルフでした・・・！

萩生田政由 今日のスクラッチ会、桜は満開でしたが、ポールはアッチコッチに散ってました。

**本日の合計¥10,000 (累計¥693,561)**

**◎親睦活動委員会 委員長 伊澤ケイ子**

親睦旅行についてお知らせします。

4月11日、午前9時に京王プラザホテル多摩前から出発ですので、8時45分集合となります。

旅行の行程はほぼ予定通り運べると考えています。

なお、宿泊先はホテルのため、館内を浴衣がけで歩くことができません。宴会場も楽な私服をお願いします。当日所用のため遅れて参加される方は、事務局で交通手段について打合せ下さい。

集合時間等詳細については、来週改めて事務局よりFAXにてご連絡します。

楽しい旅行になるよう願っています。

**◎ゴルフ同好会 澄川 昇**

地区親睦ゴルフ大会が4月23日に開催されます。当クラブとしては6名程の出席をお願いしてあります。足立会員、大松会員、藤本会員、萩生田政由会員、内田会員と私が出席の予定です。

また、5月20日、多摩東グループ第2回親睦ゴルフコンペが開催されますが、当クラブからは4名、大松会員、藤本会員、菊池会員、内田会員に参加をお願いしておりますのでよろしくお願い致します。

**◎3月誕生日祝 親睦活動委員会 小泉 博  
おめでとうございます！！**

菊池 敏、関岡 俊二、高村 弘、藤原 正範  
澄川 昇、小田 泰機、

以上各会員



**◎点鐘**

**会長 大松 誠二**  
(例会担当：赤尾 恭雄)

**ポール・ハリスを我々の心に！ Part 40**

もっと程度の良い船を探しながらバルチモアで待機している間、ポールはエリコット市まで歩いて行って干し草畑でアルバイトをした。とても重労働だったが一生懸命働いた。暫くして、食費と部屋代はタダという条件で農家の雑用係もやってみた。トウモロコシの缶詰工場でアルバイトした時には日収1ドル50セントだった。そうこうしていると、前の会社より程度の良い会社の牛運搬船が出帆するとの知らせが入った。バルチモアにとって返すと、ポールは「ミシガン号」の助監督に採用された。船の目的地はテムズ河のティルベリドックで、幸運にもロンドンから30マイル(48キロ)のところだった。

ポールは船中で知り合った友達と、国会議事堂その他歴史や小説で有名な所を見物しながら、ロンドン市内を歩き回り、やっと見つけた宿はホワイトチャペル地区の安宿だったが、バーモントから出てきた社会学者の卵ポールには社会探訪の基地として打って付けの場所だった。ミシガン号は帰路、貨物を積むためにスウォンジーに寄港したので、その機会を利用してウェールズ地方を見物することができた。

アメリカに帰ると、ポールは汽車でシカゴ開催の1893年万国博覧会を見に行った。素晴らしい大博覧会を満喫できたことは、ポールの放浪生活の中では正に圧巻だった。ポールはこの大都会シカゴに将来性を確信した。手元に汽車賃しか持ち合わせなかったポールは、博覧会に勤めていた大学時代の友達を探して泊めさせて貰った。ある日のこと、バーモント展示館に入ってみて驚いた。ラトランドから来ている従兄弟のエドとマッティー・フォックスが展示品を点検していた。ポールは咄嗟に踵を返し外へ出た。無一文のポールは親戚の前に姿を見せる気にはなれなかった。

アメリカの都市の中で、ポールが是非行きたかったのはニューオリンズで、そこには他の都市とは異なる特性があった。問題は どうやって其処へ行くかということだったが、結局、ポールはシカゴにいる大学時代の友達から借金することにした。

ニューオリンズで「プラクマイン郡でオレンジの摘果、箱詰め作業12名募集」の広告を見付け、ポールは応募した。ポール達採用された男性軍の一隊は、翌日、ミシシッピー河を渡って河口から程遠くないデルタ地帯にあるS・ピサッティ果樹園へと向かった。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

## ポール・ハリスを我々の心に！ Part 41

S・ピサッティ果樹園での摘果、箱詰め、積み出し作業は、数日間順調に運んだ。ところが、突然の暴風に見舞われハリケーンと津波が押し寄せてきた。ポールは同僚と闇夜の中、渦巻く水を掻き分けて、歩いたり泳いだりしながら婦女子達を家々から助け出し、唯一安全な場所である果樹園の倉庫へ運び込んだ。それから斧や金でこで溝を切り、溢れた水を河へ戻した。嵐が止んだ時には、堤防の上には、馬や牛、豚や鶏、その他いろいろな鳥の死骸が累々としていた。この1893年のメキシコ湾岸台風で数百万人の人命が失われたほか、家財も大損害を受けた。ポールは、この時の恐ろしさと苦しみを後々まで忘れられなかった。

ニューオリンズに帰り、ポールは新聞の求人広告を探してみたが、良い働き口はなかった。歴史的な都市ニューオリンズにはまだ未練があったが、ポールの冒険意欲も多少冷めてきていた。そこで、今度はフロリダに行つて友達に歓待して貰おうという、虫のいい考えを持った。

ジャクソンビルに行ってみると、以前働いた大理石商店のポールのポストがまだ空いていたので、再雇用して貰った。社長のジョージ・クラークは、ポールがまだ行ったことのない地域の担当を命じてくれた。その地域は南部諸州とキューバおよびバハマ諸島だった。

一年間勤めた後、ポールが退職をクラーク社長に申し出たところ慰留され、クラーク社長はポールがその時に唯一望んでいたヨーロッパでの業務を命じた。それは、「花崗岩の産地スコットランドと大理石の産地アイルランド、ベルギーやイタリーへ行って、原石の購入契約を結んでくること」だった。

ジョージ・クラークとポールとの関係は、ポールがアメリカに戻ってからも更に続き、ポールはクラークが手掛けていた土地分譲と建設事業に協力し、一方、クラークは、シカゴを定着の地として決心していたポールに最後の餞として、大都市ニューヨークの現職支店長を一時ジャクソンビルに呼び戻してポールに臨時支店長を命じた。

クラークは、ポールが「5年間の放浪生活」で得た最高の友人であり、その深い友情はその後も絶えることなく続き、後年、ロータリーの友情関係に発展した。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

『ロータリー知識』 入門編  
「ロータリークラブの会員を真のロータリアンに改善すること」

ロータリーは上辺だけの人間を作るものではなく、人間の体質改善を行なうものである。ロータリー内部で体験を積むにつれて、人はロータリアンとなるのである。人がどのような生活を送り、どのような考え方をしてきたかは、ロータリアン達は深い思慮に立って多面的なロータリーを追究し、そしてロータリアン以外の人達には見えない事柄を見通さなければならない。そしてロータリアン達の顔には、その心の成長が刻み込まれるようになり、もはやロータリーはメッキではなくなって、その心そのものの現れとならねばならない。

「ザ・ロータリアン」、各クラブの刊行物、国際ロータリー定期款、ロータリー倫理訓およびロータリー綱領は、真のロータリアンたらんと志す人達の読むべき文献である。このように広大無辺の友愛と行きとどいた企業経営理論を会得しようと望むものは研究せねばならぬ。すべてのロータリアンよ。ひたむきにロータリーを見つめよう。企業経営のあり方の真髄を極めるために研究を行なおう。われわれの生活を奉仕という雄々しい旋律に合わせよう。われわれの心を差別なき友愛心たらしめよう。

[ガイ・ガンティカー氏の「ロータリー通解」より]

(その3)

(コーナー担当：遠藤 二郎)

## 4月は「雑誌月間」です。

「ロータリーの友」は、国際ロータリーが指定する公式地域雑誌であり、会員はこれを購読する義務があります。即ち、提供されるロータリー情報を「読む」ことがロータリー・クラブ会員の資格要件であり、「ロータリーの友」は我々を「ロータリアン」として育ててくれる最も頼れる水先案内人です。

ロータリーは「自学自習」による自己研鑽の場です。

「ロータリーの友」を進んで読みましょう！！

## 【85才を迎えた私とロータリー・クラブ】その1

2002年6月10日 記

和歌山ロータリー・クラブ 竹中 泰三 様

1950年、南海倉庫株故垂井清之助社長のお薦めで、和歌山ロータリー・クラブ再発足のチャーターメンバーとして、32才の私は入会させていただきました。暫くして、それが両親に知れ、即座に退会せよとのことであった。

その理由は、ロータリー・クラブという会は、名を成し功を遂げた方々の集まりで、お前のような苦労知らず

の若輩のはいる会ではない、と言うのである。早速、垂井さんにそのことを告げると、ロータリー・クラブというのは国際的な会で、入会するなり退会すると国際問題になると驚かされ、親の意見に背いてしまった。

後日、当時、ガバナーをされておられた京都帝国大学学長の鳥養利三郎氏にそのことを打ち明けると、「反対される親父さんのお気持ちはわかるが、これから私の言うことをそのままお伝えなさい。親父さんはクラブを交遊の会だと理解されているようだが、遊びという字のつく遊学、遊説は決して遊びではない」と説明し、私がロータリーに入会したことで、何年か先、必ず親父さんが喜ぶ結果になることを、親父さんに学長の鳥養が言っていたと告げなさいとのことであった。

源助親父が昇天して40年余り経つが、私ほど家族ぐるみでロータリーのお陰を被り、楽しい幸せな人生を送れたものはないと自負している。52年間以上もロータリーとともに暮らし、ロータリーが好きで好きでたまらず、広田善八先輩とともに、陰で「ロタキチ」と言われるのに誇りさえ感じていた。

では、何故ロータリー・クラブがそんなに好きになり、ロータリーに惚れ込んでしまったのか、をお話しさせていただきます。それは日本国中に友人ができたことと、外国、特にアメリカやハワイに親戚同様に親しい友達ができたことです。それも家族ぐるみでお付き合いできる楽しい友人ができたことです。

私が入会当時、我が国のロータリーは地区が一地区で



あり、確か翌年に2地区に分かれた年であったように思うのですが、兎に角、地区大会は日本全国からロータリアンが集まり、そのため北海道から九州の端まで、ロータリーが縁で友人ができたことです。

また、私は入会当時、和歌山ロータリー・クラブを指導して下さった神戸ロータリー・クラブの故直木先輩、小菅先輩が、ロータリーの精神的な原点を解りやすく詳しく私達にご説明下さったのが、私をロータリー好きにさせたのかもしれない。

和歌山ロータリー・クラブでは、故山本弥太郎先輩のお陰でロータリーを正しく理解でき、奉仕活動も山本弥太郎先輩と何時も一緒にさせていただきました。

当時は今と違って、終戦後の影響で物質的に精神的に

奉仕の精神を受け入れてくれるところが随所であり、養老院や孤児を当時の会員達とともに慰問に回りましたが、特に、和歌山女子刑務所の携帯乳児に対する奉仕をお話したいと思います。

携帯乳児とは、出産後1年未満の赤ちゃんを持った受刑者及び刑務所内で出産してその母親とともに1年間刑務所におらねばならぬ赤ちゃんのことを携帯乳児というのだそうです。その赤ちゃんに対して、政府は何の保障も援護もないことを知り、ロータリーの奉仕活動には最適だと判断し、当時五、六人いた赤ちゃんの寝る揺りかごやガラガラの玩具を届け、ともに慰問した島村安彦君に写真を撮ってもらった思い出があるが、その写真には赤ちゃんとともに山本弥太郎先輩と一緒に私も写っており、それが世界のロータリアン誌に掲載され、私達の名前まで出ているのには感激した。(次号に続く)

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

### 【編集後記】

本年度も余すところ3ヶ月となりました。

既に次年度も助走体制に入っており、クラブとしては、この時期が一番落ち着かない時期でもあります。

26年振り、日本における国際大会(大阪)も目前の5月に迫り、かつ、6月は次のロータリー世紀を方向付ける2004年規定審議会が日本で開催されます。今年は、いつもの年とは違う慌ただしさを感じます。

我々は、冷静にロータリーの行方を見守る時期でもあります。

さて、クラブ会報委員会は、残る3が月、できるだけ多くの「会員の声」や「委員会だより」、個人的な話題や珍しい写真等々の投稿を期待します。

### 《カタクリ(ユリ科)》



林床に生える多年草であるカタクリの一生は7~8年の1枚葉の時期を経た後、2枚葉をつけて桜が咲く頃にやっと開花する貴重な花です。